



## 1. 『学思』 兔原祭が伝えるメッセージとは？

体育大会・体育祭が終わり、次は兔原祭の企画を各団体が考える時期がやってきました。中等生が何を企画し、どのように兔原祭を運営するか、重要なポイントをお伝えします。

本校の文化祭「兔原祭」が目指すものは何でしょうか。多数の来場者を招く大規模開催を目的としていたため、いつも時間切れで「何のために」を十分に検討しないままスタートしてきました。兔原祭は「生徒主体の運営」「多様な活動成果の発表」という生徒のための目標はありますが、**来場者にどのようなメッセージを伝えるか**という企画のコンセプトはクラスや部活動などの各団体に任せている状態です。

地元で開催される伝統的な祭りでは儀礼や「地元の利益」が優先となります。市民祭の多くも「市民が何を求め、地域に何をするか」という「公共の利益」を追求します。一部の出演者や協賛企業などの「個人の利益」を尊重した市民祭は衝突が多くうまくいきません。過去の兔原祭では、地域への騒音や大量の廃棄ゴミなどの問題が発生しましたが、本校が校内の事情を優先させたことで起きたのではないのでしょうか。「公共の利益」を優先させることは計画の基本なのです。

例えば「神戸まつり」は伝統的な祭りではなく、『市民創造型』の新しいタイプの祭りを目的として、地元企業や商店街に協賛を募り、世界各地の姉妹都市や日本各地のサンバチームを招いてパレードを盛り上げています。『市民』を神戸市民に限定せず「地球市民」にまで広げて企画しています。「公共の利益」の対象を神戸という地域から地球規模に広げた、基本を重視した祭りと言えます。

また、阪神大震災の起こった平成7年には実施できませんでしたが、翌年に復活させて神戸から「祈り・感謝—生きる喜び」を伝えるために、秋田県の竿灯などの日本各地の夜祭や、リオ市からはたくさんのサンバチームを招き、世界中が注目するメッセージ性の高い市民祭となりました。

兔原祭で皆さんはどのようなメッセージを伝えようとしているのでしょうか。

例えば、グローバルなテーマでは環境保護や世界平和、人権問題、ローカルなテーマでは御影や住吉との連携による地域活性化などが考えられるでしょう。なにより、**中等生がそれぞれのテーマに真剣に向き合い、訴えてくるメッセージに一般来場者は「感動」**するのではないのでしょうか。「何をするか」という表現方法だけでなく「何を伝えるか」というメッセージをしっかりと考えて下さい。

また、兔原祭での個人的パフォーマンス発表や中等生の思い出作りイベントについて賛否がありますが、「地域の利益」や「健康や安全」を損なわないように計画されることが基本です。だからといって「公共の利益」はいかなるときも絶対であるということではありません。「みんなはひとりのために。ひとりはみんなのために」という個人の利益と公共の利益が絶妙なバランスになる祭りを考えてください。そして、中等生が伝えるメッセージに来場者が「感動」する祭りを目指してください。